



秋田で子育て！ 秋田市で2人目の ママさん隊員の日常

毛利 菜摘

(秋田市地域おこし協力隊)

1 はじめに

神奈川県横浜市から妊婦で移住し丸3年、秋田市地域おこし協力隊の毛利菜摘です。2021年に2匹の猫と営業マンの夫、お腹の中の息子と630キロのドライブを経て秋田市へやってきました。

当時、都内、横浜市内で朝早くから夜遅くまで働いていた私達夫婦ですが、コロナ過で生活様式が変化するなかで、地方への移住を考えるようになりました。そして、これまで旅行して気に入ったいくつかの自治体にオンラインで移住相談を始めました。

そのなかで、以前私の祖父母が住んでいて馴染みがあったことや、自然が豊かでかつ長く住んでいた横浜市ときほど利便性が変わらず、子育てがしやすいと感じたこと、そして、ちょうど「地域おこし協力隊」の募集があったことから秋田市への移住を決めました。今は、海へも山へも車で約20分、大好きなアウトドアを存分に楽しむことができる、祖父母が住んでいた思い出の古い家が私たち家族の住まいです。

2 協力隊としての活動原点

着任後すぐに出産を経験し、右も左もわからないまま子育てがスタート。

頼れるお互いの両親は横浜市に住んでいるため、雪寄せは近所の方に教わり、暮らし方は産

後の訪問をしてくださった助産師さんや、支援センター等で出会った秋田ママに学びました。ママ友マッチングアプリに登録するも、なかなか同世代ママに出会えず、「もっと同世代の知り合い、友達がほしいなー」と思いながら初めての冬を過ごしました。



(あきたマママルシェのイベントにて)

3 移住者交流会、移住ツアー

このような私の経験から「移住した家族の手助けをしたい！」という気持ちが湧いてきて、家族で楽しめる移住者交流会を企画、開催しました。夏は移住者の方が運営されているゲストハウスで水遊び、秋冬は自然豊かな場所でのBBQのほか、秋田市産のもち米を使った餅つきや、お味噌づくり体験を行いました。これらのイベントでは、子育てや移住後の生活の相談もできるような交流タイムなど、友達作りの場を

設けました。また、これから移住を考えている家族向けに、移住ツアーやオンラインの相談会も実施しました。

市の人口減少・移住定住対策課の職員の方と、秋田市の子育て事情や、子育てサポート団体の紹介などの様々な情報も配信しています。



(移住相談団体ツアーでの稲刈り体験)

4 2年目の新しい挑戦、「あきたマママルシェ」

「ママにも嬉しい！家族も楽しい！」をコンセプトに、市内の助産院イベントを手伝っていたママさんメンバーで企画した「あきたマママルシェ」。道の駅あきた港をお借りし、育休中のママさんのハンドメイド出店や、シルバー人材センターや市内の保育学生の託児コーナー、栄養士さんの体に優しいお惣菜販売やマッサージの出店等、イベント運営はほぼ未経験のメンバーで子育ての傍ら打ち合わせを重ね、2023年春に無事開催することができました。

コロナ明けすぐの開催にも関わらず、多くのご家族に来場いただき、「産後初めてゆっくり過ごすことができました！」、「こどもたちも楽しく！自分も久しぶりにゆっくり買い物やランチを楽しみました〜」、「イベントデビューしたことで自信ができました☆」等、嬉しい声をたくさんいただきました。夏は自然豊かな一つ森公園で、秋は秋田県中央地区老人福祉総合エリアで開催し、ちびっことそのご家族で溢れました。

「あきたマママルシェ」は今年の3月まで4回開催、延べ2000名以上の移住者ファミリー、秋田で子育てされているママさんにご来場いただきました。

おかげさまで、「次はいつですか？」、「秋田市以外での開催はありますか？」などと嬉しい声をいただいております。これからもママたちの要望を吸収しながら成長していきたいと思っています。

5 「秋田おやこ劇場」を復活！

1987年に秋田市で設立され、2013年に一度活動を休止していた「秋田おやこ劇場」ですが、2023年に復活することができました。

「おやこ劇場」は、元々は生の舞台、芸術鑑賞を通じて、子どもたちの感性を豊かに育てることを目的として、各地で子育てを頑張るママさんや育児の先輩方の下で発展してきました。九州から全国に広がり、最盛期は600余りを数えましたが、現在は少子化の影響を受けて、各地で劇場の閉鎖、休会を余儀なくされています。

私自身、幼い頃から「よこはまひがしおやこ劇場」の会員で、コンサートや人形劇、落語などを楽しみ、子どもたちが中心となって行うキャンプやお祭りの運営も手伝いました。学校以外での友人にも恵まれました。5歳から新社会人まで会員を経験し、イベントのボランティア等にも携わり、本当に良い思い出がたくさんあります。

秋田で子育てをするなかで、「自分の子供にもそんな経験をさせてあげたいな…」という想いから、既に休止していた「秋田おやこ劇場」へ問い合わせをしてみたところ、元代表の方と直接お話できる機会をいただきました。そして、現在も活動している「能代おやこ劇場」、「横手おやこ劇場」の運営メンバーも応援してくださ

ることになり、私自身が運営委員長に就き、活動を再開することになりました。

2023年の活動再開後は、夏は人形劇の鑑賞会、秋はフルートとピアノのコンサート、冬は京都から来てくださった劇団の演劇鑑賞、今年に入ってからコンテンプラリーダンサーの「ダンス講座&演技の披露やピエロによるクラウンショー」を開催し、0歳から70代までの幅広い層の方たちに楽しんでいただいています。

会員さんも少しずつ増え、鑑賞会がない月も毎月集まって、水遊びをしたり、だまこ鍋を作って食べたり、様々な年齢の子どもを持つママたちが子育ての先輩チームに相談したりする場面や、移住者ママが秋田ママにアドバイスを受ける場面等も多くみられました。

何よりも子どもたちが生き生きと劇団の準備を手伝ったり、小学生が未就学児チームの面倒を見てくれたりと、子どもたちの間でもよい交流が生まれてきています。

2024年も、秋田の親子が楽しめるようなたくさんのイベントを会員みんなで考え、準備を進めていく予定です。



(秋田おやこ劇場でのハロウィンコンサート)

6 秋田で子育てを始めて、これから…

秋田で子育てをスタートして2年7か月、本当にたくさんの方に声をかけてもらい、親子と

もどもたくさんの場面で面倒を見ていただきました。

温泉に入っていると「私が見ているから頭洗っちゃいな!」、スーパーで買い物していれば、「抱っこしておくからお会計しておいでよ!」、秋田の先輩ママさん達は本当に優しい方ばかりです。日常でも自然豊かな場所でのびのび成長している息子を見て、秋田に来て本当に良かったと実感しています。SNSやニュース等では度々首都圏に住むママたちの苦勞が流れています。私の友人も東京で、横浜で、ベビーカーで辛い目にあったり、保育園に第15希望まで申し込んでも落ちたり、都会で子育てをするには楽しい場所もたくさんある一方で、課題が山積みだと、離れてみてより気づきました。

秋田は自然豊かで私も息子も大好きな場所ですが、日本で一番子どもの少ない県。助成制度は色々あれど、まだまだ子育てをする方の周りがアップデートされていない部分もたくさんあります。そんななかで苦しむママさん、パパさんの少しでも力になれるように、子育てをする家族や地域に住むご高齢の方の居場所となるような場所を作るため、ママたちのニーズを汲んで形にしていくため、残り半年を切った協力隊活動を、全力で走り抜けたと思います。